

くも膜下出血急性期患者の WFNS grading 再評価に関する前方視的多施設共同研究のデータベースを用いた二次解析研究： 高齢者、年齢による成績の違いに関する検討

1. 研究の対象

2010 年 12 月から 2013 年 3 月まで、発症後 48 時間以内に下記に示す 36 施設に搬送され、クモ膜下出血の診断のもと治療を受けられた方（心肺停止例も含まれます）。

登録 36 施設（順不同）

仙台医療センター、国立循環器病センター、旭川赤十字病院、杏林大学、岡山大学、岩手医科大学、岐阜大学、九州医療センター、厚地脳神経外科病院、広南病院、香川大学、済生会熊本病院、埼玉医科大学国際医療センター、札幌医科大学、山形市立病院済生館、山口大学、鹿児島市立病院、鹿児島大学、秋田県立脳血管研究センター、順天堂大学、信州大学、神戸市立医療センター中央市民病院、千葉県救急医療センター、千葉県循環器病センター、大阪府三島救命救急センター、大西脳神経外科病院、中村記念病院、帝京大学、東京慈恵医大付属柏病院、東京慈恵会医科大学、東京慈恵会医科大学附属青戸病院、藤田保健衛生大学、日本医科大学、日本医科大学千葉北総病院、函館脳神経外科病院、武蔵野赤十字病院

2. 研究目的・方法

くも膜下出血急性期治療においては、治療開始前の重症度の決定がきわめて重要であり、多くの分類法あるなかで Hunt-Kosnik grading、WFNS grading が国際的にも広く用いられている。後者の分類は Glasgow Coma Scale (GCS) を基準とした分類であるために客観的な Grade 分けが可能であることから、多くの施設や論文で用いられてきた。しかし WFNS grading の発表当初から、治療方針決定が最も適切に行われなければならない Grade 2, 3, 4 の分け方につき批判があったことから、WFNS の CVD and therapy committee の決定に基づき、WFNS grading の妥当性につき再検討する前方視的多施設共同研究が、日本脳神経外科学会学術委員会の主導により実施され、その結果は modified WFNS grading として論文発表および主要雑誌に Letter として既に公表されている。今回申請する研究は、上記の多施設共同研究のために集積されたデータベースを用いて、「高齢者、年齢による成績の違い」を検討するものである。くも膜下出血急性期治療成績は、外科手術および血管内治療技術や術後管理法の進歩により改善しつつあるが、高齢者の成績は今後の課題である。高齢化が世界一の日本の成績は世界のエビデンスになりうるためその成績を検討する。本邦における脳動脈瘤治療の有力施

設の多くが参加して行われた本研究のデータを詳細に分析することで、今後のこの分野での治療成績向上に有用な情報が得られるものと思われる。元研究は2010年から2013年に施行されたものであり、解析結果が診療現場での実態と解離することのないよう、迅速な研究許可を頂きたく、申請する次第です。

3. 研究に用いる試料・情報の種類

年齢、性別、動脈瘤部位、来院時および方針決定時の GCS、JCS、来院時 vital signs、発症前の mRS、Hunt-Hess grade、神経症状、既存 CVA、全身合併症、Fisher`s group、治療日、治療内容、手術合併症、症候性血管攣縮、退院時および発症 3 ヶ月五の GOS、mRS、後遺症、予後決定因子 等

4. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。
ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

広島大学院医歯薬保健学研究科 脳神経外科学 井川 房夫
広島市南区霞 1-2-3 TEL:082-257-5226

研究責任者：

広島大学院医歯薬保健学研究科 脳神経外科学 井川 房夫